

# 1 漢文入門／訓読入門

詳説漢文句法改訂版  
10／25ページ

## 熟語の構造

### 主語＋述語

雷鳴（雷が鳴る）・日没（日が没する）・地震（地が震える）

### 述語＋補足語

登山（山に登る）・乗船（船に乗る）・昇天（天に昇る）・読書（書を読む）・喫茶（茶を喫む）・得点（点を得る）

### 修飾語＋被修飾語

青天（青い天）・善人（善い人）・落花（落ちる花）・静聴（静かに聴く）・最大（最も大きい）・激動（激しく動く）

### 否定語＋被否定語

不足・不満・非情（「不」「非」は否定語）

### 並列

天地・難易・殺傷（類似や反対の語句を並記する）

### 送り仮名

白文（漢字だけで書かれた文）を訓読する場合、送り仮名は漢字の右下に歴史的仮名遣いを用いてカタカナで付ける。

### 返り点

返り点とは、訓読の際に日本語の語順に改めるための符号である。

### ① ①レ点（れてん）

① 次に挙げる熟語の構造について、適当なものをあとの選択肢からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |      |                          |      |                          |      |                          |      |                          |
|------|--------------------------|------|--------------------------|------|--------------------------|------|--------------------------|
| ① 借別 | <input type="checkbox"/> | ② 人造 | <input type="checkbox"/> | ③ 大河 | <input type="checkbox"/> | ④ 分別 | <input type="checkbox"/> |
| ⑤ 潜水 | <input type="checkbox"/> | ⑥ 未詳 | <input type="checkbox"/> | ⑦ 歓喜 | <input type="checkbox"/> | ⑧ 無類 | <input type="checkbox"/> |
| ⑨ 越冬 | <input type="checkbox"/> | ⑩ 不穩 | <input type="checkbox"/> | ⑪ 遭難 | <input type="checkbox"/> | ⑫ 衆寡 | <input type="checkbox"/> |
| ⑬ 愚問 | <input type="checkbox"/> | ⑭ 雷鳴 | <input type="checkbox"/> | ⑮ 清濁 | <input type="checkbox"/> |      |                          |

- ア 主語＋述語    イ 述語＋補足語    ウ 修飾語＋被修飾語  
エ 否定語＋被否定語    オ 並列

② 書き下し文に従って、送り仮名をつけなさい。

① 蚌 方 出 曝。 （「戦国策」燕策）

訓 蚌方に出でて曝す。

② 鍾 子 期 善 聴。 （「列子」湯問）

訓 鍾子期善く聴く。

③ 風 急 天 高 猿 嘯 哀。 （杜甫「登高」）

訓 風急に天高くして猿嘯哀し。

④ 臣 聞、主 憂 臣 勞、主 辱 臣 死。 （「史記」越王勾踐世家）

### 補説補足語（客語）

述語の後ろに置かれ、述語の内容などを補足する語。目的語と補語に区別する場合もある。日本語の文法には、補足語という用語はない。

訳 ドブ貝がちようど川から出て日向ぼっこをしていた。

訳 鍾子期は（伯牙の琴の音色を）たくみに聴いた。

訳 風は激しく吹き、天は抜けるように高く、猿の声が悲しげである。

訳 私は、主君が憂えば臣下は奔走し、主君が辱めら



# 3

## 置き字

39～44ページ

詳説 漢文句法 改訂版

置き字とは、助字のうち白文にはあっても書き下し文では表記しない文字のことである。

### 主な置き字

#### 於・于・乎

##### ▼ 場所

「於・于・乎」の下の語の送り仮名が「二」となる。

##### ▼ を 対象

「於・于・乎」の下の語の送り仮名が「二」「二」となる。

##### ▼ から 動作の起点

「於・于・乎」の下の語の送り仮名が「二」となる。

##### ▼ よりも 比較

「於・于・乎」の下の語の送り仮名が「二ヨリモ」となる。

##### ▼ に される 受身

下の語の送り仮名が「二」となり、動詞の送り仮名に助動詞「る」「らる」が付く。

### 1 返り点と送り仮名に従って、書き下し文に直しなさい。

① 馬 無<sub>レ</sub> 故 亡<sub>レ</sub> 而 入<sub>ル</sub> 胡<sub>三</sub>。

〔淮南子〕人間

馱馬が馱もなく逃げて胡の国に行ってしまった。

② 知<sub>レ</sub> 進<sub>ム</sub> 而 不<sub>レ</sub> 知<sub>ラ</sub> 却<sub>レ</sub>。

〔淮南子〕人間

馱進むことは知っているが退くことを知らない。

③ 果 遇<sub>二</sub> 太 公<sub>ニ</sub> 於 渭<sub>ノ</sub> 之 陽<sub>一</sub>。

〔史記〕齊太公世家

馱思った通り太公望に渭水の北岸で出会った。

④ 然 而 兵 破<sub>二</sub> 於 陳<sub>一</sub> 涉<sub>一</sub>。

〔漢書〕賈山伝

馱そうではあるが軍隊は陳涉に打ち破られた。

⑤ 予 助<sub>レ</sub> 苗 長<sub>セ</sub> 矣。

〔孟子〕公孫丑上

馱私は苗の伸びるのを手伝った。

⑥ 行 無<sub>レ</sub> 高<sub>ニ</sub> 乎 此<sub>一</sub> 矣。

〔呂氏春秋〕至忠

馱行為がこれよりも高いことはいない。

而

〱して・そして **順接**  
「而」の直前の語の送り仮名が「て」となる。

だが・しかし **逆接**  
「而」の直前の語の送り仮名が「ども」となる。

矣・焉

〱のだ **強意**

〱か **疑問**  
書き下しの末尾が「ンヤ」「ン」となる。

〱か(いや、くない) **反語**  
書き下しの末尾が「ンヤ」「ン」となる。

兮

語調を整える。

右の助字は訓読されることがある。

於 おイテ (関係・場所)

乎 〱か (疑問)・〱や (反語)

〱かな (詠嘆)

而 しかシテ・しこうシテ (順接)・しかモ (逆説)

2 書き下し文に従って、返り点と送り仮名をつけなさい。

① 俠者極衆而無足數者。 (漢書・游侠伝)

読 俠者は極めて衆けれども数ふるに足る者無し。

② 諸侯之卒十倍於秦。 (史記・蘇秦列伝)

読 諸侯の卒は秦に十倍す。

③ 而隱身于後、操罔焉。 (容齋隨筆・虫鳥之智)

読 而して身を後ろに隠し、罔を操る。

④ 内困於父母、外困於諸侯。 (国語・晋語)

読 内には父母に困しめられ、外には諸侯に困しめらる。

⑤ 及政立為秦王、而丹質於秦。 (史記・刺客列伝)

読 政立ちて秦王と為るに及びて、丹秦に質たり。

⑥ 其劍自舟中墮於水。 (呂氏春秋・察今)

読 其の劍舟中より水に墮つ。

訳 任侠を行う者は極めて多かったが取りあげるほどの者はいなかった。

訳 諸侯の兵力は秦の十倍はある。

訳 而して身を背後に隠し、網を持つ。

訳 国内では父母に苦しめられ、国外では諸侯に苦しめられる。

訳 政(始皇帝)が位について秦王となると、(燕の太子)丹は秦の人質となった。

訳 その人の劍が舟の中から川に落ちた。